

この本の効果的な使い方

この「演習問題集」は、「予習シリーズ」の各回にあわせてつくられています。問題に取り組むことにより、各回の学習がどの程度身についたかを確認することができます。また、記述問題に取り組むことにより、いろいろなことがらを、さまざまな方向から考える力が養われます。

① 各回のページ構成

練習問題……各回の学習で必ず身につけておきたいことが出題されています。力試しのつもりで取り組みましょう。

考えてみよう……短文で答える記述問題です。学習したことがらに関連して、理由や結果などが問われています。必ず自分で考えて、自分なりの答えを文にしてみましょう。「予習シリーズ」をよく読めば解答が導けるものや、さらに発展させた内容が問われているものまで、さまざまです。中学受験の記述問題対策としても、活用できます。

② 総合

練習問題……原則として、4回分の学習内容が総合の範囲となっています。

③ 調べてみよう！

近年、重視されつつある「調べ学習」として、巻末に、各回につき1問が出題されています。いろいろな調べ方を考えて、答えをまとめてみましょう。春休み・夏休み・冬休みなど、じっくり学習に取り組むことのできる期間に調べてみるのもよいでしょう。

④ 解答・解説の活用を

問題を解いてみたら、できなかった問題を中心に、もう一度見直しをしましょう。「解答・解説」には、学習のヒントや大切なことがらが多くついています。必ず目を通して、理解を深めておきましょう。

目次

第1回	日本の食べ物の今	4
第2回	魚はどこから?	8
第3回	暮らしに役立つ資源	12
第4回	ものをつくる仕事	16
第5回	総合	20
第6回	工業がもたらしたもの	24
第7回	新しい工業と伝統工業	28
第8回	日本と世界の結びつき	32
第9回	九州地方	36
第10回	総合	40
第11回	中国・四国地方	44
第12回	近畿地方	48
第13回	中部地方	52
第14回	関東地方	56
第15回	総合	60
第16回	東北地方	64
第17回	北海道地方	68
第18回	日本のすがた	72
第19回	総合	76
	調べてみよう!	80
	解答・解説	85

第1回 日本の食べ物の今

練習問題

解答は86ページ

1 次の会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

としお：おじさん、こんにちは。ここに来たのはひさしぶりだけど、このあたりはずいぶんとかわってしまいましたね。

おじさん：一緒にレンゲを見た も、耕す人がいなくなって、荒れているんだよ。

としお：どんどん景色がかわっていってしまいますね。景色といえば、おじさんの水田の横に、畑がありますね。①青々とした水田地帯の中にぽつんと畑があって、何だか不思議な気がしました。ところで、あの稲はいつ植えたのですか。

おじさん：②田植えは5月だね。9月下旬か10月上旬に稲刈りをするんだよ。ほら、その納屋にある という機械を使うんだ。

としお：稲を刈りとして、脱穀もできる機械ですね。ところで、おじさんは、どういうことに気がつかって稲を栽培しているのですか。

おじさん：③水の管理と気象、それから、うちは④農薬を使わないから、病虫害にも気をつけようね。

問1 には、斜面にある階段状の水田を示すことばが入ります。 にあてはまることばを答えなさい。

問2 にあてはまる農業機械を次から選んで、記号で答えなさい。

ア トラクター イ コンバイン ウ ロータリー車 エ 耕うん機

問3 下線①のようになっているのは、減反政策によって稲の栽培をやめ、他の作物の栽培に切りかえたためです。このことを何といいますか。次から選んで、記号で答えなさい。

ア 輪作 イ 単作 ウ 転作 エ 連作

問4 下線②の後に行われることを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 田起こし イ 中干し ウ 代かき エ 育苗

問5 下線③について、気温が低い時期に田の水を多くして水位を上げるのは、何という自然災害を防ぐためですか。

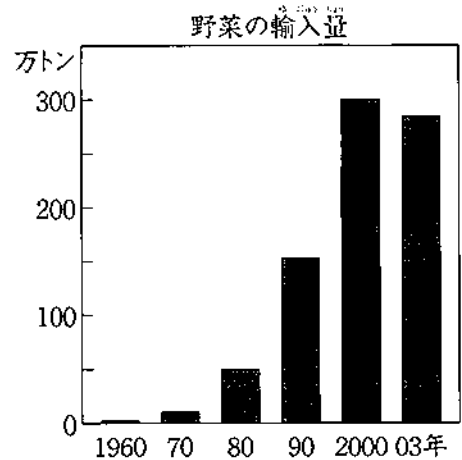
問6 下線④や化学肥料を用いない栽培を何といいますか。

問7 おじさんが住んでいるのは山形県です。米の生産がさかんな、山形県にある平野を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 石狩平野 イ 十勝平野 ウ 庄内平野 エ 仙台平野

2 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

とうふ・みその原料である **A**，パンやうどんの原料である **B** など、日本人の食生活は、外国産の農産物なしには成り立たなくなっています。比較的高い①自給率を保っていた野菜も、右のグラフのように輸入が大きく増えてきました。輸入野菜は、②パプリカなどのめずらしい野菜だけではありません。もともと日本になじみの深いしょうが・ごぼう、さらに **C** などにもおよんでいます。こうした③輸入野菜の増加には、④国内の生産環境や流通などのさまざまな問題がかかわっています。



問1 **A**・**B** にあてはまる農作物の名をそれぞれ答えなさい。

問2 **C** には、深谷 **C** の名で、埼玉県の生産が知られている野菜があてはまります。この野菜を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア ねぎ イ トマト ウ かぼちゃ エ キャベツ

問3 下線①について、野菜より自給率が高い農産物を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 米 イ 肉類 ウ くだもの エ とうもろこし

問4 下線②が韓国から輸入される量が増えたため、これに似た野菜であるピーマンを栽培している農家が影響を受けました。特に深刻な影響を受けた農家が多い県を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 富山県 イ 香川県 ウ 宮崎県 エ 宮城県

問5 下線③の理由として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 安い労働力で栽培され、値段が安いから。
 イ 肥料や農薬が使われていないため、安全だから。
 ウ 日本でとれない時期にも輸入できるから。
 エ 国内産に近い味のものが栽培されているから。

問6 下線④について、日本では、せまい土地に多くの手間や費用をかけて収穫量を増やす努力が行われています。このような農業を何といいますか。

問7 野菜のおもな輸入相手国は、中国とアメリカです。アメリカでは、**D** を組み換えた農産物の生産も行われています。日本では、これらの農産物を用いた食品であることをしっかりと表示することが義務づけられています。**D** にあてはまることばを答えなさい。

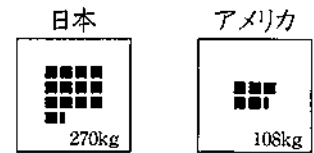
3 次の会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

先生：日本では、せまい土地をどうやって、耕地として利用してきたと思う？

えり：山や荒れ地を **A** したり、秋田県の大潟村のように **B** したり……。①山の斜面も利用してきました。

先生：その通り。では、せまい土地でどんな農業が行われているんだらう。Iの資料を見てごらん。日本が肥料をたくさん使っているのがわかるかな。

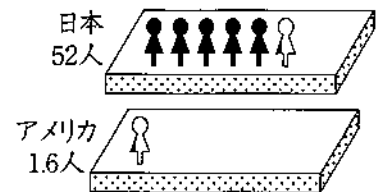
I 耕地1haあたりの肥料使用量



(2002/03年度) ■は1個20kg

えり：でも先生、化学肥料をたくさん使いすぎると、土地がやせるのではないですか。

II 耕地100haで働く人数



(2002年) ■は1個10人

先生：今は、効果が長く続く肥料がつくられたり、②有機栽培が広まったりして、使用量は減っているよ。次は、IIの資料を見てごらん。

えり：アメリカでは、これしか耕す人がいないのですか。

先生：アメリカでは、広い耕地を大型機械で耕すんだ。だから、人をやとうお金が少なくてすむんだ。そして、その安い農産物を輸出するわけなんだよ。

えり：日本の農産物は、かなうわけないですね。

先生：消費者は、味がよいもの、形がよいものに加えて、最近では **C** なものを好むようになった。すると、国内産が注目されるんだ。そして日本でも、③耕されずに放置されている土地を借りて耕す農家や、④会社の形で農業を行う人たちが現れてきているんだよ。

問1 **A** ~ **C** にあてはまることばをそれぞれ答えなさい。

問2 下線①につくられた畑を何といいますか。

問3 下線②について、次の問いに答えなさい。

- 有機栽培では、落ち葉などを家畜のふんや尿でくさらせてつくる肥料が用いられます。このような肥料を何といいますか。
- 有機栽培でつくられたと国が認めた農産物につけられる右のマークを何といいますか。



問4 下線③の理由の一つに **D** 化が進み、若い働き手がいなくなることがあげられます。 **D** にあてはまることばを答えなさい。

問5 下線④には、どのような利点がありますか。正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ア 土地を持たない人でも農業ができます。 | イ 個人の収入が安定します。 |
| ウ 連作が行いやすくなります。 | エ 農村がさびれてしまうのを防げます。 |

考えてみよう

解答は87ページ

- 1 昔の稲作は、「田をはう」農業といわれました。それは、なぜですか。

- 2 田に引く水の量を調整するのは、なぜですか。

- 3 くだものなどでは、いろいろな品種を栽培するようになりました。この理由を説明しなさい。

- 4 中国などでつくられる野菜が、たくさん輸入されるようになりました。それは、なぜですか。

練習問題 [4ページ]

①

問1 棚田 問2 イ 問3 ウ

問4 イ 問5 冷害

問6 有機栽培 問7 ウ

解説

問1 斜面にある水田を棚田(千枚田)といいます。畑の場合は、段々畑といいます。

問2 コンバインは、稲刈りと脱穀を一度に行います。ウのロータリー車は、除雪に用います。エの耕うん機は、田畑を耕す小型の機械です。

問3 ア 土地をいくつかに分け、年によってつくる作物をかえる栽培方法です。

イ 一つの耕地で、一年に種類の作物を栽培することです。

エ 同じ作物を続けて栽培することです。

問4 中干しによるひびで、土の中に酸素が入ります。また、根がしっかりと効果もあります(『予習シリーズ4年下』65ページ)。

問5 稲作では、水の管理が重要な仕事になります。気温などによって、水位を調整します。

問7 ア・イは北海道に、エは宮城県にあります。

②

問1 A 大豆 B 小麦

問2 ア 問3 ア

問4 ウ 問5 イ

問6 集約農業 問7 遺伝子

解説

問1 大豆は、和食にかかせない食品です。大豆のほとんどは油をしぼるために使われます。しぼりかすは、家畜の飼料となります。

問2 ねぎの輸入量が急増したため、日本は一定期間、定められた量をこえるものに高い税金をかけて、輸入をおさえたことがあります。

問3 野菜の自給率は比較的高く、これをこえるものは、米やにわたりの卵など、わずかし

ありません(『予習シリーズ4年下』106ページ)。

問4 ピーマンは、宮崎県が全国有数の生産をあげています。

問5 農薬などの基準は国によってちがうため、外国産の農産物の安全性を問題視する意見もあります。

問6 集約農業を行うため、日本の農産物の値段は高くなってしまいます。

問7 遺伝子組み換え食品は、世界の食料不足を救う技術として期待されている反面、長期間に体に取り入れた場合の安全性を疑問視する声もあります。日本では、遺伝子を組み換えた原料を用いた場合は、そのことを表示することが義務づけられています。

③

問1 A 開拓 B 干拓 C 安全

問2 段々畑

問3 1 たい肥 2 有機JASマーク

問4 高齢 問5 ウ

解説

問1 A 原野や荒地を切り開いて、耕地にすることを開拓といいます。

B 湖や海などの水を干しあげて耕地にすることを干拓といいます。干拓地として、九州の有明海、岡山県の児島湾、秋田県の八郎潟が知られています。

問3 1 化学肥料が広まる前は、どの農家でもたい肥を使用してきました。また、機械が広まる前は、農家に牛や馬がいることがめずらしくありませんでした。家畜のふんや尿が、肥料づくりにも役立っていたのです。

2 「有機」や「無農薬」という名をつけた農産物が増えてくると、どのような基準にもとづいて表示するかが問題となりました。そのため2001年から、国による基準を満たした農産物に有機JASマークがつけられることになりました。左側

が太陽、右側が雲を表し、自然のめぐみで植物が育つことを示すため、交わった部分には葉がデザインされています。

問4 65歳以上の人口の割合が高くなることを高齢化といいます。農業で働いている人の半分以上が、65歳以上の人です。

問5 農業に興味がある人でも、土地を持っていない場合や、農業技術を学ぶ場がないと、農業では働けません。一方で、後継者がいなかったり、自らが年老いたりしたため、耕されなくなった土地もあります。そのような状態を改善するため、他の農家の土地を借りて、大規模に農業を行う農家や農家のグループが増えています。さらに、会社の形にすることで、労働する時間や休日を決め、効率的に農業を行う動きもみられます。このような形をとれば、土地や経験のない人でも農業を職業とすることができます。農業の後継者不足を解決する一つの方法かもしれません。

考えてみよう [7ページ]

①

田植え・草取り・稲刈りなど、農作業のほとんどを、機械を用いずに低い姿勢で行っていたから。

解説

農業機械や化学肥料・農薬などが使われるようになったため、稲作などの農作業にかかる時間はこの40年間で5分の1程度になりました。機械も大型化し、一日で作業できる面積も増えました。苗は、苗代ではなく、ビニールハウスの中で、育苗箱で育てられるようになりました。これは、田植機に合う形で苗をつくるためでもあります。

②

気温や天候の変化から稲を守るため。

解説

稲は、もともとあたたかいところで生まれた作物です。そのため、夏に気温が下がると秋の実りが悪くなることがあります。このような被害から稲を守るため、気温が下がると田に引く水の量を

多くします。これは、水の方が空気よりあたたまりにくく、さめにくい性質を利用しているのです。

また、田にまったく水を引かない場合もあります。これを中干しといい、田にできたひびわれによって、地中に酸素を送ることができます。さらに、根が水分を求めて強くはります。

③

- ・消費者の好みにあわせるため。
- ・病虫害などの被害を大きくしないため。
- ・収穫の時期が重ならないようにするため。

解説

海外からいろいろな作物が輸入され、食生活が豊かになって、消費者がさまざまなくだものを好むようになりました。多くの品種を栽培していれば、一つの品種に病虫害などが発生した場合でも、他の品種を出荷することができます。また、一つの品種にかたよると実る時期が同じであるため、農作業の手が足りず、おいしい時期を逃してしまうおそれもあります。

④

- ・安く農産物を栽培できるから。
- ・輸送技術や冷凍技術が発達したから。
- ・日本向けの野菜づくりを中国の農家にまかせる日本の会社があるから。

解説

中国などでは、もともとの物価が安いため、野菜を安く栽培できます。しかも、国土が広いので、日本と時期をずらして出荷することも可能です。以前は、葉を食べる野菜は、傷みやすく、海外での生産にむかないとされてきました。しかし、輸送技術や冷凍技術の発達によって、輸入されるようになりました。日本人の好みにあった野菜を中国の農家と契約して、専門に生産をまかせる会社も現れています。しかし、農薬などの安全性を問題視する意見も強くあります。